

Argo(アルゴ)WCSC36 アピール文 2026.1.29
ソフト名/soft-name: Argo(アルゴ)
開発者/developer: 市村豊(いちむらゆたか/Yutaka Ichimura)
X(旧Twitter): @argonworks
Blog: <http://blog.livedoor.jp/argon1/>

バイブコーディングでAIのGeminiに「やねうら王の互換の将棋ソフトをやねうら王のコードを見ないで作ってください」と指示を出して将棋ソフトを作っています(無料で利用できるのでやり始めた)。可能ならばそれで参加をしたいと思っています。現時点ではまだろくに動かないので、ダメだったら去年の「やねうら王」ベースのソフトで参加しようと思います。

長期的にはフルスクラッチ部門での5位以内の入賞を目指したいと現在は少し思っています。それは結果的に死ぬまで達成できなくてもそれはそれで構わないと思っています。「成功したら楽しい、だけじゃなくて、成功に向かって挑戦している今が楽しい」と思うと成功に向かって挑戦することがやりやすくなる。そういう気分です。
RPGだって、ラスボスを倒すまでの冒険が楽しい、ものでしょう。

> Gemini CLIを使ってAIプログラミングを始めよう！ インストールからコード作成まで
https://note.com/munakata_souri/n/n36c29a93d9a7#b1f83034-2319-4182-a43a-b22fd9642439
私は以上のサイトのやり方を参考にしました。

*****以上です。以下はおまけです。

この文章を読んでいただきましてありがとうございます。あなた様の大変貴重な時間を使ってこの文章を読んでもただいこと、感謝しております。

以下の文章は無理に読む必要はありません。個人的にはコンピュータ将棋選手権のアピール文を読む人にとって興味深く読めそうな作文を以下に書いたつもりであります

2026.1.31時点 気が向いたら2026.3.31までにもうちよっと加筆修正するかもしれないです。

1. 困ったときの話。どうしたらよいか分からない状況になったら。
2. 他者に支配されない方法、「生殺与奪の権を他人に握らせるな」について、その対応方法として「最低限は自分でできること」と「全方位外交(バックアップ・代替手段を持つておく)」の重要性について書きます
3. 負け組の人が勝つ方法について 結論「勝っている人がやれないこと、負けている人しかできないことがあるから、そこから攻略する」
4. 問題解決の方法を考えるというのは、「この場合はこうする」という方法を調べてきて、良さそうな方法を選ぶこと。だから調査能力が大事。
5. 将棋のようなボードゲームは、コミュニケーション方法として優れていると思う

1. 困ったときの話。どうしたらよいか分からない状況になったら。

・まずはLLMIに聞くと良いと思います。

グーグルのGeminiとMicrosoftのCopilotが無料で使えるし、個人的には十分な高性能だと思っています。私は主にこの二つを使っていますが、LLMIは種類がいくつかあるので気に入ったものを使うので良いと思います(LLMIによって「性格」が違うので余裕があれば複数のLLMIに同じ質問をして回答を比較すると良い。また文字入力が苦手ならばスマートフォンで音声入力をするとう簡単に文字入力ができるのでお勧めです、GeminiもCopilotもスマートフォンのアプリである)。

LLMIに「困ったことがあって、どうしたらよいか分からないので助けてください」という文章をコピーして聞いてみてください。そうすればLLMIが相談に乗ってくれますし、結構優秀だから有益なアドバイスをくれると思います。

また個人的には本を読んで疑問点を感じたらLLMIに聞くという使い方もしています。良い教師ですよ(具体例として「経済学において使用価値と交換価値は独立している関係ないか?」「モノの値段(価格)は何によって決まるのか?」という質問をGeminiにしたら割とためになる返答を返してくれました。意外なことにアニメのストーリーについて質問しても適切に回答をしてくれます)。

LLMIは人間ではないから、他人には相談しにくいような内容でも割と気軽に相談したり質問をしたりすることができるのは良い点だと思う。私は割と普段から話し相手になってもらっています。MicrosoftのCopilotはスマートフォンのアプリからだと音声で対話するモードもある(割と普通に会話が成立してびっくりする)。

LLMIはたまに間違えることがあるからその点は注意したほうが良いですが(少し前のGeminiは選挙の話をしているときに自民党と公明党が連立を解消したことを知らなかった)。

グーグルのGemini

<https://gemini.google.com/>

MicrosoftのCopilot

<https://copilot.microsoft.com/>

・自治体がやっている相談系を利用する。

現在、私が住んでいる東京都の青梅市にしても、以前に住んでいた広島県呉市にしても、市が専門家の相談をやっていました。市が発行している広報誌、青梅市の場合は「公報おうめ」というのが一か月に一回発行されていて新聞折込・市役所とか図書館のラックで配布していたりする、インターネットでも無料で読める、というのがありますが、ああいう市の広報紙って一通り目を通すとたまに有益な情報が載っていたりするんでチェックする価値はあると思うのですが、「弁護士の法律相談」とか、「社会保険労務士の相談」のようなサービスをやっていて、「弁護士の法律相談」だと一件につき一回、30分の相談が無料で受けられるということをしていたりします。私も利用したことがあるのですがあれは結構良いサービスだと思うからまずはこれを利用すると良いんじゃないかと思う。

あとは市役所には「なんでも相談窓口」みたいなのが青梅市の場合があります。多くの自治体でそういうのがあると思うので困ったことがあったら市役所の相談窓口を頼るとするのが良いと思います。

前に少し調べたことがあるのですが、多分日本国在住の日本国民は社会福祉とか公的サービスで大体は何とかなるんじゃないかと思います。そういう感想を持ちました。

有名なところでは「生活保護」という制度がありますが、そういう感じでシニアとか低所得者向けの住宅の支援サービスとか、そういう公的な支援とかサービスのようなのが結構充実しているので、日本国在住の日本国民は「お金がない」的な問題は割と何とかなる気がします。個人的にはそういう印象を受けました。

・市議会議員を頼る。

2023年4月に私が被選挙権を濫用して広島県呉市の市議会議員選挙に立候補したときに市役所の選挙管理委員会の人と手続きのために少し会話したり、会話はしなかったのですが、呉市の市議の方を近くで見る機会があったのですが(ポスターの内容がこれでよいかのチェックを選管のところで行っているのの横を通った、おまけで、朝日新聞と読売新聞と広島県の地元紙の中国新聞の記者の方と会話する機会がありました、一応候補者のことをちゃんと新聞に掲載する)、その経験からすると市役所の人と市議の人は予想以上にしっかりしていてまともな人だという印象を個人的には受けました。

私は漠然と、「政治家や公務員は愚かであるか邪悪である(もしくはその両方である)」という言説の影響を受けていましたが、実際に近くで見ると市役所の職員と市議会議員は、愚かでもなければ邪悪でもないように見えました。これは私にとってはうれしい誤算でした。それなので、現在の私は割と日本国の未来に楽観的です。

さて、市議会議員の中には選挙の時の選挙公報なんかで「困ったことがあったらお気軽にご相談ください」という風なことを書いている市議の方が、あなたの自治体にもいるのではないかと思います。選挙公報に書いていなくても、公式ホームページなんかに書いてあったりする。

それなので、もしどうしても困ったことがあって他人の助けを必要とするとなったときに、公式ホームページに「困ったことがあったらお気軽にご相談ください」と書いてある市議会議員に本当に相談するということをしたら、恐らくは相談に乗ってくれると思います。

2.他者に支配されない方法、「生殺与奪の権を他人に握らせるな」について、その対応方法として「最低限は自分でできること」と「全方位外交(バックアップ・代替手段を持つておく)」の重要性について書きます



<http://phoenix-wind.com/word/33400.php>

少し前にXで流行った「鬼滅の刃」のセリフ(という認識で私はいます)。

・最低限のことは自分でできるという状態にした上で、苦手・不得意なものを外注する。

例として適切かは微妙ですが、H2ロケットの話をしします。

少し前までH2Aロケットというのが日本の基幹ロケットだったわけですが、最近に後継機のH3ロケットにバージョンアップしました。

コンピュータ将棋ソフトを開発するときに「やねうら王」や「dlshogi」をもとにして改造するところから開発を始めるというのと同じやり方として、現在の日本のH3ロケットは元々は、アメリカの「デルタ」ロケットというのを導入して改造したあたりから開発が始まったという認識で私はいます。

N-I <https://ja.wikipedia.org/wiki/N-I%E3%83%AD%E3%82%B1%E3%83%83%E3%83%88> アメリカの「デルタ」(

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%87%E3%83%AB%E3%82%BF%E3%83%AD%E3%82%B1%E3%83%83%E3%83%88>)を元にした

N-II <https://ja.wikipedia.org/wiki/N-II%E3%83%AD%E3%82%B1%E3%83%83%E3%83%88>

H-I <https://ja.wikipedia.org/wiki/H-I%E3%83%AD%E3%82%B1%E3%83%83%E3%83%88>

H-II <https://ja.wikipedia.org/wiki/H-II%E3%83%AD%E3%82%B1%E3%83%83%E3%83%88>

H-IIA <https://ja.wikipedia.org/wiki/H-IIA%E3%83%AD%E3%82%B1%E3%83%83%E3%83%88>

H3 <https://ja.wikipedia.org/wiki/H3%E3%83%AD%E3%82%B1%E3%83%83%E3%83%88>

日本のロケット開発は二系統あって、そのうちの一系統のH3のほうは以上のような変遷をたどっています(もう一系統は現在のイプシロン・ロケット、こちらはフルスクラッチで開発した)。

H2ロケットの時に「純国産ロケット」という言われ方をしていたのですが、日本の国内企業だけで作ることができた。これができたことで、現在の後継のH3ロケットはコスト削減を目的として海外産の部品を使っていますが、海外メーカーが「部品を売らないぞ」と言ってきても、「それならば自分で作ります」と言えば良いので困ることがなくなった。

これが「生殺与奪の権を他人に握らせるな」ということです。

ここで、「海外の部品がないとロケットが作れない」という状態だと「生殺与奪の権を他人に握ら」れている状態なわけです。

そういう話です。

最近の日本だと、レアアースを中国に依存していると「レアアースを日本に売らないぞ」と中国にいわれと困るので、南鳥島の海底にあるレアアース泥を取ろうとしているのだと思います（自給できれば外国から「売らないぞ」と言われても困ることはない）。

あとは先端半導体を日本国内で作れるように「ラピダス」の半導体の工場を北海道に作ったり。

こういうことを、個人レベルでも実践するほうが良いと思うのです。普段他人に外注していることでも、最低限のことが自分でできるようになっておくと、他人に支配されてない状態になれるわけです。

具体例を出せば食事とか、洗濯とか。なんであろうと、「それがないと困る」というものは、最低限は自分で調達できるという状態にしておいたほうが良いということです（普段は他人に外注しているとしても）。

そもそも「それがないと困る」もので、他者に依存しているものを無くなる前の平常時に自覚する事が結構難しかったりもしますが。

「お金」とかどうですかね。あなたの現在の「お金」の調達方法が機能しなくなったときに、自分でお金を自給できる能力を持っていると強いわけですよ。

「副業」についてもそういう側面があると思います。普段から副業をしていなくても良いですが、「いざというときに直ちに自分で最低限のお金を調達することが可能な状態にある」という状態だと強いと思いますよ私は。

・外注について、全方位外交の話。

自分ではやれないで他人に外注せざるを得ないものについて。

また例として微妙かもしれませんが、日本の天然ガスの輸入元を例に出します。



https://www.gas.or.jp/gasfacts_j/#target/page_no=3

見ていただけるとわかる通り、オーストラリアの比率が高いのですが、オーストラリアは日本の友好国なので「日本に売らないぞ」とは多分言わないだろうということで無問題とします。で、オーストラリアを別にすれば割とバランス良くたくさんの国から輸入している。

こういう状態だと、例えばロシアが「言うことを聞かないと日本に天然ガスを売らないぞ」とか言い出しても、「他から買うから別に良いです」と言えば良いわけです（そういう状態だからロシアはそういうことを言い出さない、抑止力にもなる）。

こういう状態を「全方位外交(ぜんほういがいこう)」と言います。

自分ではやれないで他人に外注せざるを得ないものについては、一か所に依存しているとその一か所がダメになると全滅するとか、その依存先に支配されるリスクがあるので、一つに依存するのではなくて複数の代替手段を確保しておくが良い。

コンピュータの用語で言ったら、重要なものについては「バックアップを(可能ならば複数)持っておく」ということです。「バックアップ」というのはモノやデータだけではなく「手段」や「方法」も含まれます。

『依存先』のバックアップを(可能ならば複数)持っておく」ということです。別の言い方をすれば、「複数の依存先に依存しておく(依存しているところが一つではなくて複数ある、という状態にする)」ということなのです。

個人的に以上は重要なことだと思うので、意識しておいても良いことだと思います。

私の個人的な話をします。

私はコンピュータ将棋の大会だけじゃなくてコンピュータ囲碁ソフトの大会にも時々参加しています。

それは理由の一つとして、「コミュニティ」というもののバックアップを取っておく目的があります。そもそも「何かやらかして、そのコミュニティにいらなくなる」可能性がどうしても一定の確率であって、その可能性をゼロにはできない。だから「何かやらかして」コンピュータ将棋の大会に参加できなくなる場合を想定して、所属コミュニティのバックアップを持つためにコンピュータ将棋だけではなく、コンピュータ囲碁ソフトの大会にも時々参加しているわけです。

理由としてはそれだけではなくて、ゲームAIの大会は確率的な部分があるから、大会に参加する回数が多ければ上位入賞するチャンスも増えるのではないかという狙いもあります。

また、将棋ソフトの方法を囲碁ソフトに転用してみたら通用するだろうか？ という技術的な興味があるのでそういう実験をしてみたいということも思っていたり。理由自体は複数あるのですが。

また別の例としてSNSについて。

そもそも私はXをメインのSNSとして使っていたのですが、Xが使えなくなった時のバックアップとして、Facebookにもダブルポストするようにしていたのです。それで、スマートフォンのFacebookのアプリから投稿すると、Instagramとスレズにも同時に投稿できる機能があるので、XとFacebook・Instagram・スレズ、と4つのSNSに同時投稿をしていたのです。

しばらくそうしていたら、なんかスレズのアルゴリズムからの評価が上がったらしくて、スレズだと割と定期的に投稿のPVが数百できるようになってきた。

このあたりで、「仮に一つのSNSでPVが100だとしても、10個のSNSを運用していたら100PVが10個で合計で1000PVになるよな」と、複数個のSNSを束ねることで合計でのPV数を増やせないか？ という風に思うようになってきた。

それで、上記の4つのSNSに加えて「ブルースカイ」と「mixi2」のSNSアカウントにも投稿するようにして、現在は6つのSNSアカウントを育てているのですが、こうなるとインターネットの分散型ネットワークの概念と同じで、仮にXが使えなくなってもそこまで困らないというか、代替手段が複数ある状態になっている。

Xは特にアルゴリズムで判断しているから、ちょっとしたことでアカウントが凍結されるリスクがある。だからXについてはバックアップのSNS運用をしていたほうが良いと思う。アカウントの凍結までいなくても単純に一時的にサーバーがダウンするとかっていうときにバックアップの情報収集の手段があったほうが良いと思うので。

別の言い方をすると、Xのアカウントを運営にBANされて消されたときに困らない状態にしておく、ということなのです(XのようなSNSは「フォロワー」が一番の資産なのでフォロワーのバックアップをとる事が基本的にやること。なのでフォロワー数が多い人はメールマガジンをやっていることが多い。それはメールマガジンだとメールアドレスのリストを持つことなので、「運営にBANされてフォロワーを失う」ことが原理的にないからです)。

Xに限らず全てのことに対して、それがなくなっても困らない代替手段を事前に確保しておくが良い、ということです。

ちなみに、Xのアカウントを運用している人は「Twilog(ツイログ)」というサービスはご存じですかね。

Xの投稿をバックアップしてブログ形式で保存するというサービスで、Xをやっている人は「Twilog(ツイログ)」で投稿のバックアップを取っておくのが良いと個人的には思います。無料プランでよいので。

<https://twilog.togetter.com/>

3. 負け組の人が勝つ方法について

結論「勝っている人がやれないこと、負けている人しかできないことがあるから、そこから攻略する」

そもそも、人によっておかれている状況が全員違っているはずですよ。

勝っている人、社会的に成功している人というものは、プラスのものを持っているものが多いですが、実はうっかりすると忘れそうになることとして、成功しているがゆえに出来なくなることというのがあるのだと私は思います。

まず、お金持ちで有名人であるという、うかつなことができなくなります。リスクが取れなくなるのですよ。

そもそもお金持ちで有名人すぎると、(一般人に絡まれるため)電車とかバスのような公共交通機関での移動ができなくなって移動が全部タクシーとか自動車になると不必要にコストがかかるわけですね。同じような理由で住むところにセキュリティを求めるためにその分コストがかかるとか。

お金の面に限らず、例として、前に私は宇宙工学を勉強していたことがありますが、ロケットを作って打ち上げるとか飛行機を作って飛ばすとかってことをする場合には、田舎であるほうが良いのです(砂漠が最高です)。都会のほうが良いということが多いとは思いますが、ロケットを打ち上げることは都会ではできないことです(だから北海道の大樹町はロケットの打ち上げ場「宇宙港」を作ることで町おこしをしようとしている)。

石井あたら「山奥ニート」やっています。」という、ものすごい山奥にある廃校になった小学校の建物の跡地をシェアハウスにしてニートの人たちが共同生活をしているという話を書いている本においては、「将来ドローンでの物流や空飛ぶ車が実用化されたら都会よりも山奥のほうが利便性が高くなる可能性がある(都会はドローンや空飛ぶ車が離着陸する場所がないが、田舎であればあるほどそういう場所がたくさんある)」という話がありました。実際、ドローンでの物流や自動運転バスの実証実験は田舎で行われています。こういうことは都会よりも田舎のほうが有利に進めやすいことです。

そもそも、人が住んでいるところというのは何かしらの良い点があるからそこに人が住んでいるわけです。あなたが住んでいるところも、そこだからこそ有利に進められること、というのが何かあると思うのですよ。

現在の私は東京都の青梅市というところに住んでいて、電車で一時間くらいで東京23区に行くことができる、にしても青梅市自体は都会ではないという微妙なところなのですが、東京23区にも時々行くことがあります。イベントが多いです。それ自体は良いことですが、逆にイベントに行かないと機会損失が発生するので「嫌でも行かないといけない」的な部分もちょっとあります。

逆に、私は2010年から大体8年間くらい広島県呉市の工場で働いていたので呉市に住んでいたのですが、東京に比べたらはるかにイベントは少なかったですが、おかげで引きこもってコンピュータ囲碁・将棋のソフトの開発に集中することができたり、英語の勉強とか資格試験の勉強に集中することができたと思っています。

このように、田舎はイベントが少ないことは一見すると不利に見えるかもしれませんが、勉強に集中するとか、あるいはオンラインゲームに集中するとか、囲碁や将棋の研究に集中するとかソフト開発をするってことには良い環境なんじゃないかと思うわけですよ。

場所に限らず、社会的に成功者になってしまうと、囲碁や将棋の研究に集中するという風なことがやりにくくなると思うのですよ。例として、学者は読書が大事だと思うのですが、社会的に成功するというか人気者になると忙しくなってきたりして学者なんだけど読書をする時間を長くとることができない、という状況に陥ると思う。読書をする時間を長くとることができるのは、むしろ社会的にはあまり成功していない人のほうが有利なのではないかと思うのです(無職のニートなんかは、読書する時間はたくさんとれそう)。

そういう風に考えてみると、社会的に成功していない人のほうが、成功している人よりも有利に進められることというのがあると思う。そう考えていくと、完全に同じ有利さではないかもしれませんが、ある程度は「質の違いであって立場的には同格」に近づけていくことができるのではないかと思う。

だから、「あなたの置かれている状況や住んでいる場所だからこそ、他の人よりも有利に進められること」が何かあると思うので、それをやっていく方向でいけば、一見すると有利な立場にいる人と、「質の違いであって優劣はない」という状況に近づけていくことができるのではないかと思うのです。

4.問題解決の方法を考えるというのは、「この場合はこうする」という方法を調べてきて、良さそうな方法を選ぶこと。だから調査能力が大事。

【「自分で考える」=「何も考えてない」って話。(1/5)】

https://x.com/mita_norifusa/status/1836691740654490042

漫画「ドラゴン桜」のXアカウントで紹介されている通りなのですが。また、ちきりんさんの何かの本で同じ内容のことが書いてあった気がします。

LLMに聞くのでもグーグルで検索するのも、図書館なんかの本に書いているのを調べてくるのでもよいのですが、何かの問題に直面したというときにはその問題についての解決の方法の草案を調べてください。

例として、「お金がない」とかっていうときは、お金が無くなった時にどうするかという方法を調べるわけです。

雇用保険の失業給付を受けて再就職するのも、公的な起業支援のプログラムみたいなところに行って自分で起業してビジネスを始めるのでも、ウーバーイーツのフードデリバリーの仕事のようなことを始めるのでも、「せどり」をするとか、そもそも生活保護を受給して生活保護で暮らすというのでもそれはそれで問題解決の方法ではあります。

ちなみに、私が住んでいる青梅市の近くだと、羽村市の中央図書館と福生市の中央図書館と立川市の中央図書館には「ビジネス支援コーナー」があって、ビジネス関係の本がまとめておいてあるコーナーがあるのですが、そういうところの本を見ていくと「自宅で一人でできるビジネス・アイデア」みたいな本があったりします。それを見ると「せどり(eBAYで買ってメルカリ・ヤフオクで売るとか)」以外にも、オンラインで何かの講師をするとか、WEBライターの仕事の紹介とかが載っていたりするので、そういうのを見て自分にあったものを選んで実践すれば良い。

「せどり」に関しても、「せどりのやり方」的な本もあるし、そもそも「喫茶店の開業の仕方」とか「ラーメン屋の開業の仕方」みたいな本もある。

図書館に「ビジネス支援コーナー」がなくても、どこの市立図書館もビジネス関連の本は置いてあると思う(市立図書館はその自治体の財政状況によって充実度が違っているものらしいのですが)。

そんな風に見ていけば、お金がないという状況の時にお金を得る方法自体はいくつかの方法があって、その複数の方法を調べてきてそのなかから自分が良さそうだと思う方法を選ぶ、ということになります。

結論をまとめると「問題解決の方法を考えるというのは、自分で考えるということではない。調査をして「この場合はこうする」というやり方・選択肢を複数集めてきてその中から良さそうな方法を選ぶことをする」ということです。だから実は「問題解決の方法を考える」ことはそもそも「考える」ことではなくて、「調査をすること(調べること)」がやるべきことのほとんどです。調査能力が大事です。

具体例として言えば、衆議院・参議院議員選挙なんかそれがそれに近い。ああいう選挙は「日本の経済政策をどうするか」的な問題を自分で考えるのではなくて、それぞれの政党が「こういう風にやります」と言っているのを比較検討して、自分が良さそうだと思う方法を選ぶ、ということをしている。

自分自身が何かの問題に直面した時もそれと同じようにやる。「この場合はこうする」という解決の方法の草案を集めてきて、良さそうな方法を選ぶ。それが「問題解決の方法を考える」ということです。

5.将棋のようなボードゲームは、コミュニケーション方法として優れていると思う

他人と雑談することは難しいと思う。

少なくとも私には難しい。エビデンスは特にはないですが多分、得意ではない人が日本国民の多数派だと私は思う。

他人といい感じに雑談をするというのは結構高度な能力であって、難しくうまくできないという人のほうが多数派だと思う。

それと比べると、囲碁や将棋のようなボードゲームは一言も発声しなくても相手とのコミュニケーションが取れるところがコミュニケーション手法として優れていると思う。コンピュータ囲碁・将棋の大会だって、黙って盤面を見ていたらそれで相手とのコミュニケーションが取れている感じがする(気がする)。

それは他人と雑談をすることが得意ではない人にとっては大変にありがたい性質だ。

そもそも、人間は全員がユニークな存在だと思う。そもそも自分と他人は別の存在なので優劣の比較対象ではない。それは「うどんとそばはどちらがおいしいのか?」「バラの花とヒマワリの花はどちらが美しいのか?」を絶対的に決めることができないのと同じことだと思う。

だから「将棋の名人が囲碁の名人よりも劣っているということがないように、あなたが他人よりも劣っているということはない」と私は思っています。そもそも比較対象じゃない。

コンピュータ囲碁・将棋の大会というのは、例えてみれば「将棋の名人と囲碁の名人とチェスの世界チャンピオンとバックギャモンの世界チャンピオンが4人で麻雀をしている」ようなものだと私は思っています。それで仮に将棋の名人が囲碁の名人に負けたとしても、それは将棋の名人の尊厳を損なうものではない。

なんで私がコンピュータ将棋の大会に参加しているかということについて。

「週刊東洋経済」のようなビジネス雑誌を読んでいると、これからの日本だと「漫画・アニメ・ゲーム」が重要な産業になるという話がかかれてるように読めます。アニメ産業は現在の日本において数少ない成長産業らしいのですよ。

それと同じように、スポーツ・ビジネスというのもビジネス雑誌で特集されていたりします。エビデンスは特にはないですが、現在の私には「eスポーツ」がこれからますます盛り上がっていくことは間違いないことに見えるのです。

だとしたら、囲碁・将棋・麻雀・TCG(トレーディングカードゲーム)のようなマインド・スポーツもこれからますます盛り上がって行くのではないかと、現在の私には思えるのです。

そういう状況であるのなら、コンピュータ将棋の大会に参加してプレゼンス(存在感)を発揮しておくことは、今後にも実利的にも役立つことなのではないかと現在の私は思っているわけです。